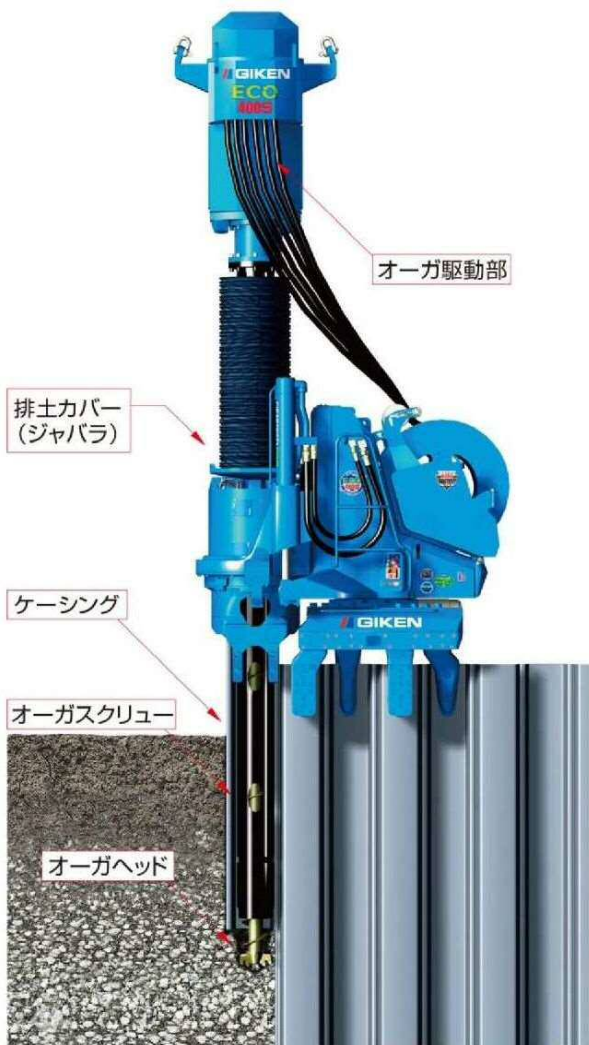


技術概要書（様式）

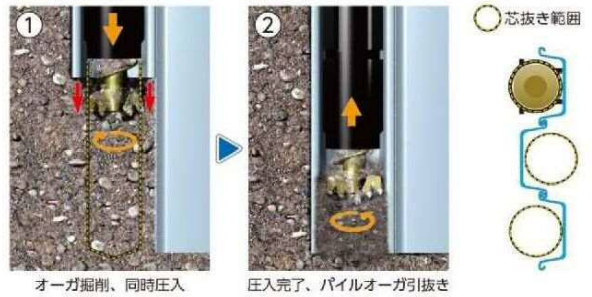
※別紙2

技術分類	安全 <input checked="" type="radio"/> 防災 環境 コスト ICT 品質 <b>（該当する分類に○を付けてください）</b>		
技術名称	硬質地盤クリア工法	担当部署	九州事務所
NETIS登録番号	CB-980118-V	担当者	小田博志
社名等	全国圧入協会	電話番号	092-292-3351
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>多くの特徴をもつ優れた圧入工法の唯一の弱点、それが硬質地盤への圧入です。特に玉石混りの砂礫層や岩盤などの硬質地盤の場合は、単独圧入はもちろんのこと、ウォータージェット併用工法でもほとんど貫入効果は期待できません。このような硬質地盤をオーガ掘削と圧入を連動させた「芯抜き理論」の実用化によって克服し、圧入の優位性を損なうことなく適用地盤の範囲を飛躍的に拡大したのが「硬質地盤クリア工法」です。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>専用のクラッシュパイラーは、地盤を掘削するパイルオーガを装着しながら圧入機本体は軽量・コンパクトで周囲への威圧感もなく、狭い場所や傾斜地などでの施工も可能にしました。また完成杭を圧入機本体がしっかりとつかむ機構なので、転倒の心配もなく高い安全性を実現しています。また、排出ガスのクリーン化や騒音対策をはじめ、国内建機で初めて生分解性油脂を標準採用するなど、現場の周辺環境や地球環境にも徹底的に配慮した設計となっています。</p> <p>3. 技術の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来技術では2工種(砂置換工+鋼矢板工)必要であったものを、1工種で可能としました。</li> <li>・経済性、工程の短縮、安全性および施工性の面で有利であり、さらに周辺環境への影響が小さいというメリットがあります。</li> </ul> <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土質条件 軟岩、礫質土、砂質土、シルト、粘性土、有機質土、玉石混じり砂礫地盤等に適用します。</li> <li>・杭種 U形鋼矢板、近接施工用土留鋼材、H形鋼矢板、鋼管矢板、PC壁体等に適用します。</li> </ul> <p>5. 活用実績（2010年1月現在）</p> <p>国の機関 179件（九州 37件、九州以外 142件）  自治体 1234件（九州 136件、九州以外 1098件）  民間 65件（九州 19件、九州以外 46件）</p>		

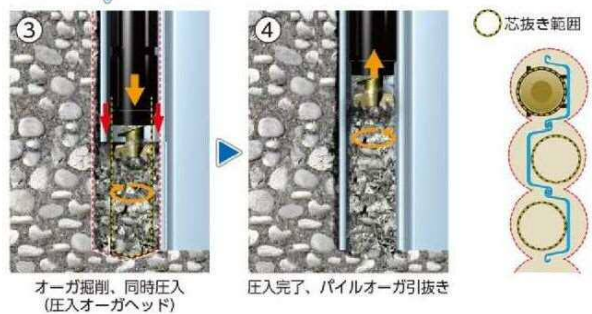
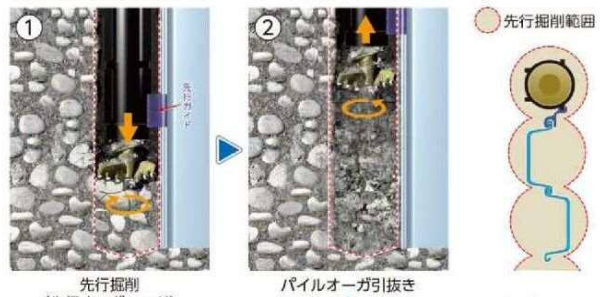
6. 写真・図・表



芯抜き同時圧入



先行掘削圧入



工法の優位性

傾斜地施工



水上施工



近接施工

